

参議院 政府開発援助等に関する特別委員会
平成28年4月13日(水)
参考人意見陳述

アフリカ支援の課題と可能性

人づくり支援大国に向けて

山田 肖子
名古屋大学

現代アフリカ地図(2016.1現在)



統計から知るアフリカの姿

	世界	中・低所得 国	サブサハ ラ・アフ リカ
国民総所得に占める援助の割合(2013)	0.2	0.6	2.9
GDP成長率(年%)(2014)	2.5	4.9	4.4
輸出にしめる製造業の割合(%)(2009)	70	64	33
一人当たりGDP(US\$)(2014)	8008	2503	1034
出生時平均余命 (2013)	71.2	69.3	58.1
人口増加率(年%)(2014年)	1.2	1.3	2.7
総人口に占める15歳以下の割合 (%)(2009)	27	29	43
初等教育修了率 (%)(2013)	92.3	91.3	69.1

出所: World Development Indicators 2015

ニュースでみる現代アフリカ

- 紛争

- 多くの国での国政選挙前後の騒乱(ジンバブエ、ケニア、ナイジェリア、エチオピア、セネガル等)
- 民族間、宗教間対立に起因する内戦
 - ダルフール(スーダン)紛争→2011年 南スーダン共和国が独立
 - ルワンダ、シエラレオネ、中央アフリカ、リベリア、コートジボアール、ウガンダ等)
- アラブの春(2010年12月チュニジアを契機にマグレブ諸国に広がった反政府運動)

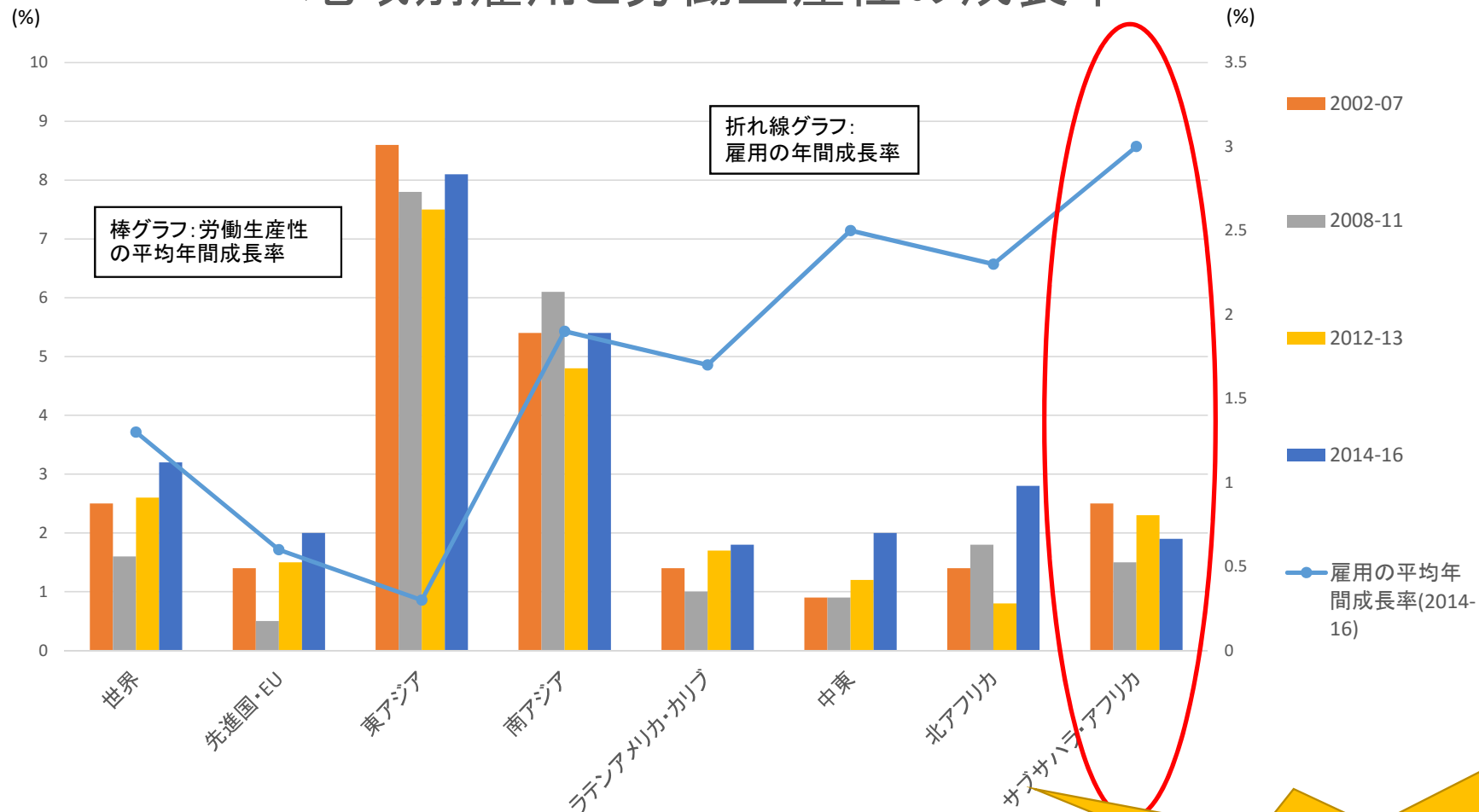
- 難民

- 飢餓、貧困

- エイズ

- 中国の企業や援助のアフリカ進出

地域別雇用と労働生産性の成長率



アフリカでは、経済が好調で、雇用も拡大しているにもかかわらず、労働生産性が低い

人づくりが急務

現代アフリカの人づくりの課題(1):雇用と産業の人材基盤

- 近年の高い経済成長
- 雇用は拡大しているが、労働生産性は低い(図1)
- アフリカの労働人口の4割が24歳以下の若者だが、その層の失業率が最も高い
 - サブサハラアフリカの成人失業率全体は8.0%だが、24歳以下の失業率は14.1% (World Development Indicators 2014)

→国全体の経済は成長しているが、個人には成長の恩恵が行きわたっていない

→技術力がないと、資源に依存した基盤の弱い経済成長に留まってしまう

現代アフリカの人づくり課題(2): 質と包摂性

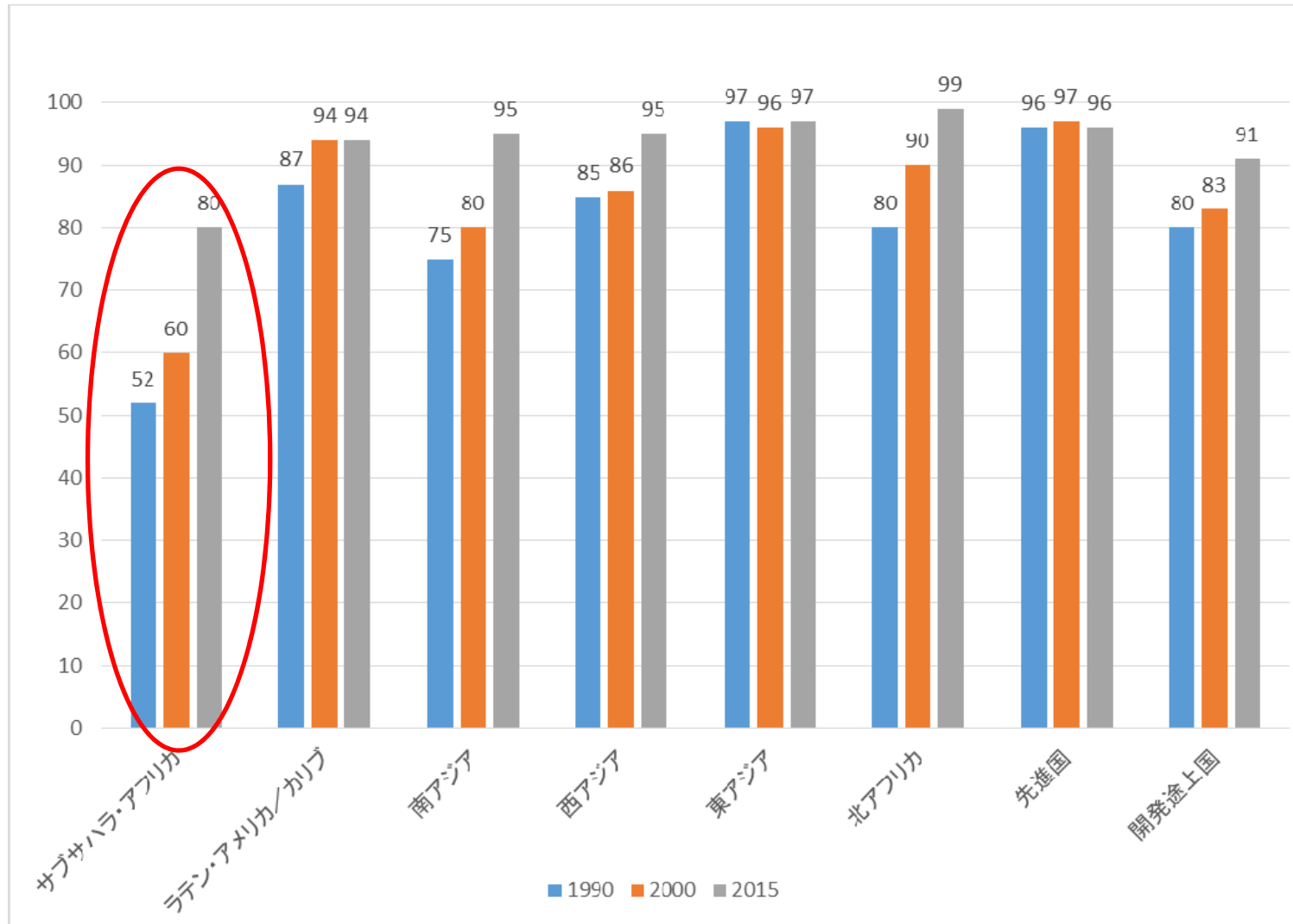
技術力や指導力のある人材は、どうやって育てるのか？

- 過去15年ぐらいで急に学校が増えている
 - 教育の質が落ちている
 - 生徒がものすごく増えているのに、教師や教室、教材が足りない
 - 資金不足
 - 学校に来て学ぶべきことを学んでいない
- 教育の機会や結果に格差がある(親の教育や経済レベル、民族、男女、都市ー農村格差、障がい者など)
- 学齢期の青少年だけでなく、学ぶこと、技能を磨くことは、生涯続く営み

<SDGの中での新しい課題>

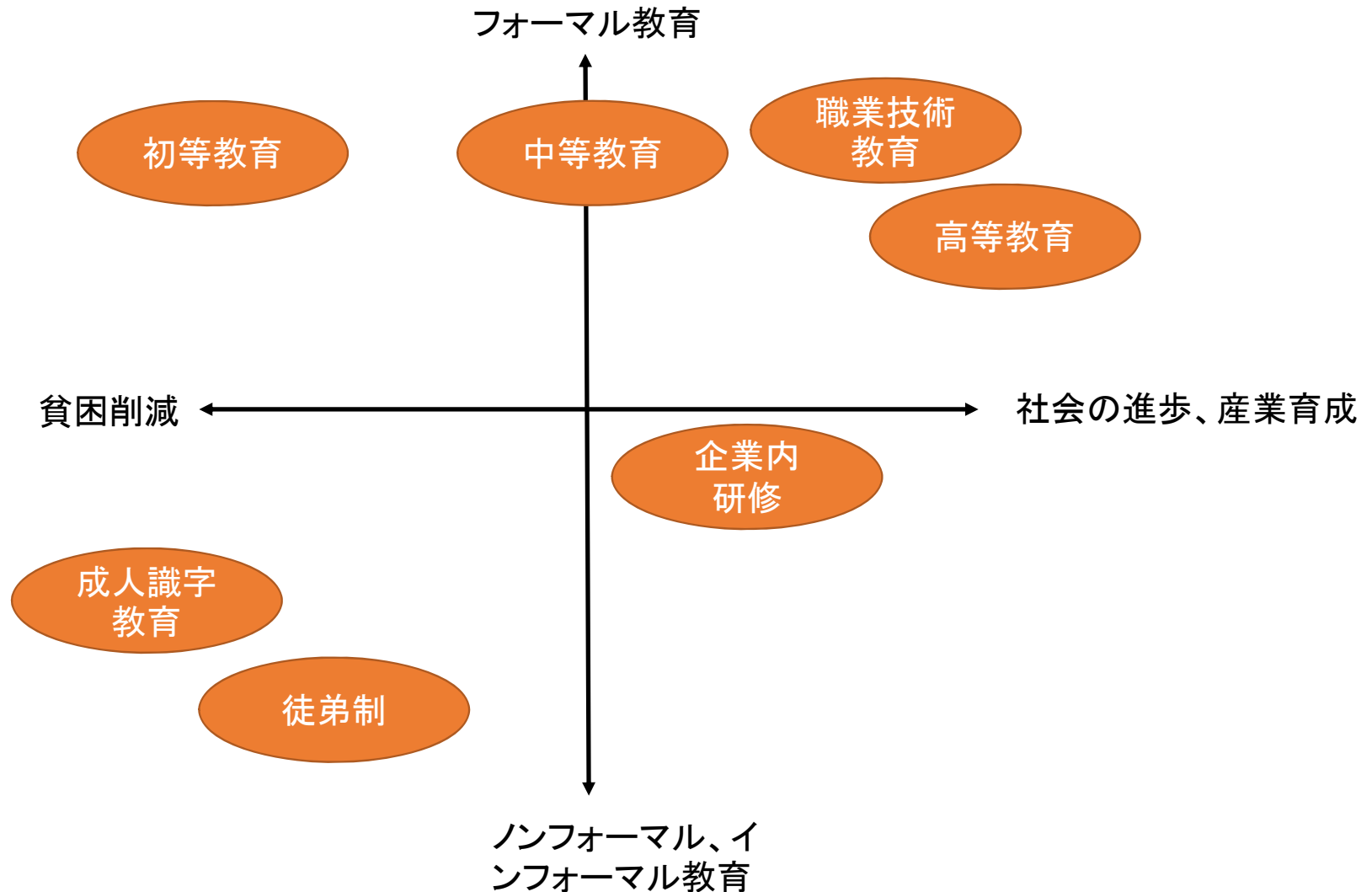
- 「学校に行く」ことは目的ではなく手段。大事なのは、何を学ぶか、学んだことが社会や本人の向上に役立つかどうか
 - 雇用可能技術の習得
 - 識字、計算能力の習得
 - 価値観や態度の形成
- 学校以外の場(職場や社会)での学習や、多様な年代、社会グループの学習の重要性の再認識

世界の初等教育純就学率の変遷とアフリカ



出典: The Millennium Development Goals Report 2015, p. 24.

教育はすそ野と幅の広い分野



日本とアフリカの関係(1): 貿易

- アフリカからの資源輸入(希少金属の需要拡大、中東の政情不安)
- ヨーロッパ市場向け自動車の組み立て工場、アフリカ市場向け工業製品輸出

→近年、アフリカの経済の好調を受けて、投資の関心が高まっている
(例)

- 労働集約型産業ー縫製業など
- 成長しつつあるアフリカの中流階級向け消費財(アフリカは巨大なマーケット)ー自動車、電化製品など
- 日本の高い技術力をちょっと工夫すれば、貧困削減に貢献するビジネス(BOP)になる分野ーソーラーパネル、蚊帳、栄養食品など

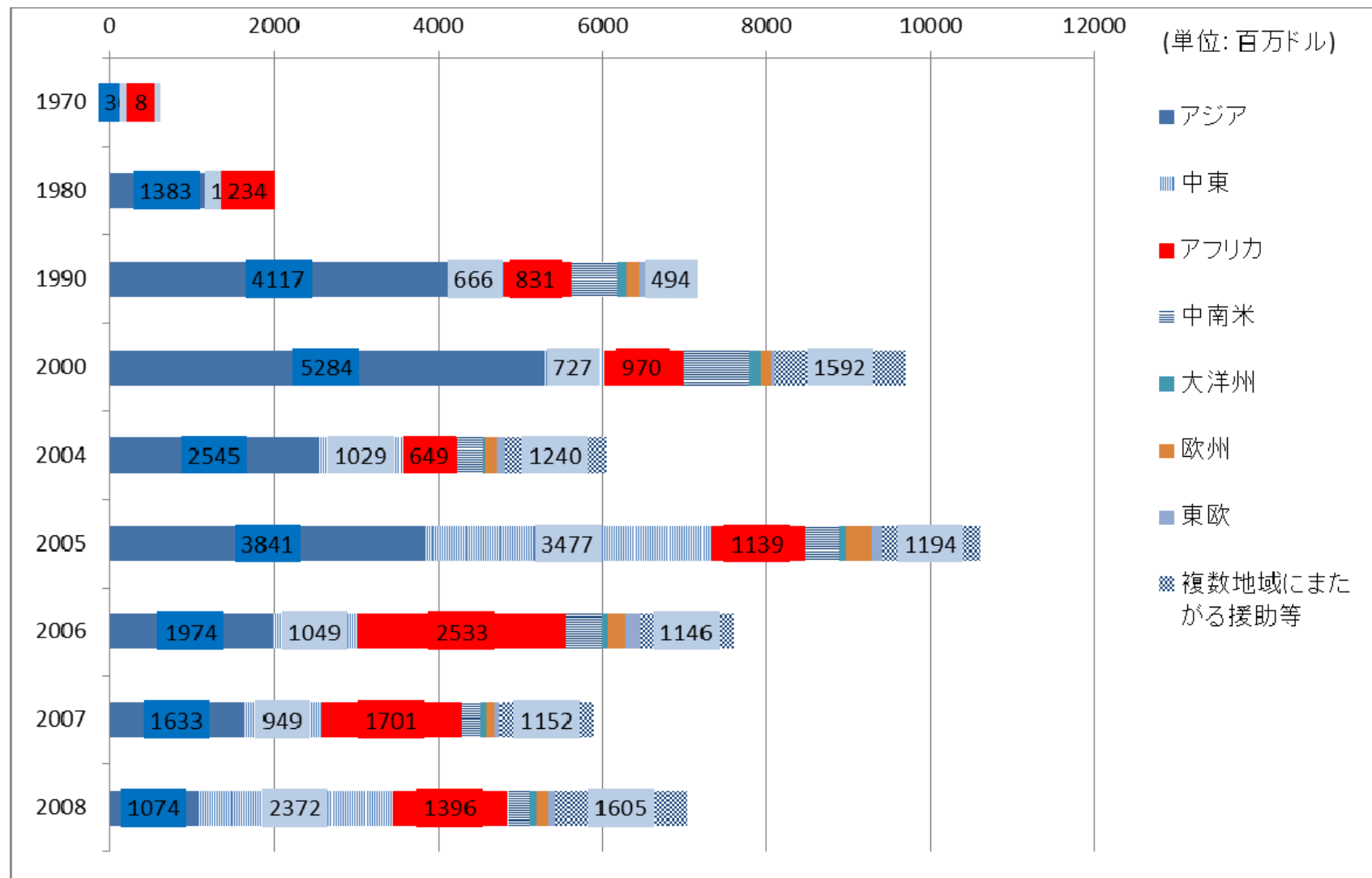
→企業は関心はあるが、アジアに比べ、情報や経験が圧倒的に不足している(情報提供が必要)

→現地のいい人材を確保できる、育てられるメカニズムが必要

日本とアフリカの関係：ODA(開発協力)

- TICAD (Tokyo International Conference on African Development: アフリカ開発会議)(1993年から5年に1回開催)
 - 第6回(次回)はケニアにて2016年8月27-28日開催予定！
 - 開催に向け、投資フォーラムや高級実務者会合等を実施中
 - 第5回(2013年)の主要テーマは “インフラ整備と人づくり”
 - 産業人材育成(ABEイニシアチブ)ー5年間で300人に日本で修士号を取る奨学金
 - ナカラ回廊開発・整備計画ーモザンビークから内陸国のマラウィ、ザンビアまでの道路(経済活発化の基盤)
- 基礎的社会サービスの充実(教育、女性、保健、水、衛生)
- 農業、村落開発プロジェクト(農業、食料・栄養安全保障)
- 環境・防災
- 平和と安定、民主主義の定着

日本政府の援助対象地域の変化



日中のアフリカ進出 の比較

	日本 	中国 
アフリカにある 大使館の数	32	49
対アフリカ貿易総額 (2010年)	251億 ^{ドル}	1270億 ^{ドル}
対アフリカ投資総額	4.6億 ^{ドル} (2011年)	14.3億 ^{ドル} (2009年)
首脳・外相のアフリカ 訪問数(2009年～)	5回 計6カ国	8回 のべ28カ国

アフリカ支援の視点

• 基礎的社会サービス

- 統計上も、サブサハラ・アフリカは他の地域より保健、教育、衛生などの基礎的サービスが不足しており、人道的な支援は不可欠
- 同時に、ただサービスを提供すればいいと考えるのではなく、**一人ひとりが、健康で、必要な技能や知識を持って、社会の役に立つ人材になることを目的とすべき**

← 手段(学校や保健所)にこだわらず、いい結果を得るための柔軟性と発想が必要 (SDGsの理念とも通底)

• 日本にとっても重要な地域、人々 ←税金の有効な使い道

- 貿易パートナーとして←支援することで、日本企業も関わりやすくなる

＜直接投資に影響する要因＞

- いい人材
- 安定した政治
- 食料や仕事、家がないなどで社会不安が起きていないこと
- 経済活動の基盤となるインフラ(道路、電力、工場用地、港等)
- 日本の優秀な企業(中小も含む)の技術力や人材が活かせる

• 日本の支援の強み

- ODA総額は減っている中で、何でもやることは不可能かつ焦点ボケにつながる

→日本にしかできないこと

- 受益者の視点に立った支援
- 単に技術を伝えるだけでなく、態度や考え方も伝える(KAIZENや、専門家による指導など)
- 既存の枠組みに縛られない広義の人づくり

米百俵の精神：日本の人づくり

国がおこるのも、まちが栄えるのも、ことごとく人にある。
学校を建て、人物を養成するのだ。

小林虎三郎長岡藩大参事(1870年)

山本有三著戯曲「米百俵」より

2001年のジェノバ・サミットにおいて、小泉総理は「米百俵の精神」を紹介し、国造りにおける教育の重要性を訴えた。この精神に象徴される自助努力に基づく教育への投資こそ、途上国の貧困を削減し、経済成長を促進する有効な手段である...。(外務省 2002)



小・中学校



職業技術校



徒弟